

# 牧羊ひろば



名古屋東教会 教会学校

幼な子らをわたしの所に来るままにして  
おきなさい。止めてはならない。神の国  
はこのような者の国である。

マルコ10・14

## ●名古屋東教会 教会学校の始まり

一九九四年春、「名古屋教会の家庭集会伝道所」であった時代に、現在の教会学校の前身というべき形が生まれました。自宅の敷地内を伝道所に提供していた実家の母とともに、小2、小4の二人の息子と4歳の姪に、神様のことを伝えたいという思いがきっかけでした。それは、一緒に讃美歌を歌ったりお祈りをしたりお菓子を食べたりといった小さな集まりでした。そのうちに、息子たちと同じ小

学校に通う子どもたちが集会に集うようになり、主と共にいる感謝な時間を毎週楽しく共有しました。定期的な教会学校の出席者が8名となり、いよいよ主のみ言葉を語るメッセンジャーが与えられることが祈りの課題となっていました。教会学校

でのメッセージの必然性からの定住牧師への希望の祈りです。当時、毎週定期的に遠方から集会を開いてくださった先生方に直々にその願いを語りました。そしてそれが、名古屋東教会伝道所設立に向けての契機となり、その後間もなく教団の第三種教会「名古屋東教会」として伝道師が赴任されました。先生の力強い教会学校への姿勢に子どもたちは益々増え、伝道所の一室を借りて英語教室を開かせていただいていた私の生徒たちも含め、イースターやクリスマスには100人を超える子どもたちであふれるようになり、主の豊かな恵みに感謝しました。

## ・試練のなかでの恵み

発足当時の名古屋東教会伝道所は、地域の文化発信の機関としては十分機能していましたが、クリスチャンホームの子どもたちの比率が約3パーセントに満たない状態でした。多くの子どもたちが教会に来てくれ感謝ではありますが、毎週の教会学校でのみ言葉の共有というよりは寧ろ、各行事にあふれる子どもたちへの対応に追われている状態で、マルタのように疲れと虚しさを覚えました。二〇〇五年夏、伝道所を管理していた父が天に召され、続いて伝道師も転任して行かれ、さらに伝道所の移転に伴い数年間の無牧の時代が続きました。勿論、教会学校も実質的に機能しなくなっていました。振りだしの状態

です。それでも、主はこの教会を十分に愛してくださいました。そんな小さな教会に来てくれた子どもたちは、寧ろしっかりと神様のみ言葉に触れることができました。主管牧師はじめ諸先生方を通して語られたみ言葉は、子どもたちの心に沁みるものでした。

### ・主への感謝と期待

二〇〇九年、主は祈りに応えて常任牧師を与えてくださり、教会学校を再編し導いてくださっています。現在教会学校のための大きな力、働き手である教会学校教師も3名与えられ、共に子どもたちの救いのために働かせていただけることを感謝しています。

(長谷川紀子)

### ●月一回の教会学校(幼稚園児・高校生)

教会に集う3家族の子どもたち7名で、10時半からの礼拝に並行して教会学校を行っています。祈り、讃美歌、メッセージ、ゲームで約1時間の内容です。年齢差がかなりありますので、中高生はゲームリーダーやアシスタントのような仕事をお願いする時もあります。

### ・心掛けている事

教会学校の前の奉仕者のための30分の礼拝が感謝です。祈り

の一致が恵みとなります。それと、朝の子どもたちの心の様子をよく見る事も心掛けています。兄弟喧嘩げんかしながら教会に来る事などもあり、神様に目を向けるよう持つていくのが大変な時もあります。

### ・感謝と恵み

以前に比べ子どもたちが落ち着いてきました。突つき合うのが普通の小学二、三年の男の子たちが、彼らなりに、大人の礼拝の献金、祈り、祝祷まで途中から参加出来るようになりました。

また、「静かにしようね」と言っているのを聞いた時には、感動さえ覚えました！三人のベテラン教師がそれぞれに用いられているのも恵みです。私のメッセージの時は主に手作りの紙芝居を使います。フラッシュカードも時々使います。テーマが子どもたちには難しい時は、祈りつつ彼らの心に届く内容を考えます。そして何より準備の中で、自分自身が主の豊かさに浸ることができ、若かった時とはまた違う50代の今の私に語ってくださる主との交わりが、奉仕の喜びです。

### ・今後の希望

まずは月2回、将来は毎週教会学校ができたらしと思っています。



教会学校の様子

この世の常識に負けない神様の常識を知ること、子どもたちも教師も共に、主にあつて元気を頂き、成長していきたく思います。私自身、教会学校で宝をもらいましたから…。

(小崎泉住美)

## ●中高生科の礼拝

「キャンプの時のような賛美をたくさんしたい」との中高生の希望もあり、昨年9月より、月1回の教会学校（幼稚園児〜高校生）の日を除く毎週9時45分から10時25分まで、中高生のための礼拝が始まりました。

## ・心掛けている事

プログラムは、ワーシップソングの賛美、課題を出し合ってお祈り、メッセージ、祈祷、主の祈りと続きます。メッセージは牧羊者を用いていますが、主日礼拝のメッセージも同じ聖書箇所から語られますので、中高生の礼拝では聖書箇所の背景や経緯などを中心に語るように準備しています。またメッセージの初めに聖書箇所から示されたことやわからないこ



礼拝の様子

とを聞いたり、メッセージの途中に質問したりし、神様からの語り掛けに耳を傾けられるように心掛けています。

## ・感謝と願い

現在は、高校生と中学生の姉弟の2名が出席しています。人数が少ないため礼拝以外に中高生の活動はありませんが、教会の奉仕や教会員との交わりをとおして信仰が成長していることは感謝です。そして友達を誘ってくる教会学校となるように、さらに信仰的にも物質的（施設等）にも整えられるように祈っています。もちろん、近隣に住む中高生が導かれる、地域に根差した教会であるように願っています。

(松尾 雄)

## ●主の臨在の中で互いに愛し仕えあう教会として

マルコ10・14より、私たちは教会の働きの中心に教会学校があると信じ、開拓教会の小さい群れという恵みも生かし教会全体で子どもたちに関わっています。特に、牧師と教会学校教師たちは、父なる神と主イエスが子どもたちを愛されたと同じ心で子どもたちを愛し育てていきたいと切望し祈り労しています。かつて集った子どもたちも含め、多くの子どもたちの救いと成長のために、聖霊に導かれ用いていただきます。

(清水 百合)